

① 高齢者福祉政策について

平成27年介護保険法改正は、制度スタート以来の大きな変更となり、今までの介護サービスの中身や利用者負担のあり方などが大きく変わった。特に、これまで全国一律で設定されていた要支援者に対するサービスの一部が、市町村の地域支援事業に移行し、平成29年度から新しい総合事業として実施される。今後、少子化、核家族化、生涯未婚率の上昇等を背景に、高齢者を取り巻く将来は厳しく、3Kと言われるお金、健康、孤独など不安材料も多いと思われ、解消していくべき課題も多い。今後、地域が担う役割と、高齢者同士が互いに支えあうことが不可欠になってくることは確実である。そのためにも、高齢者の社会参加と活躍の場づくりを推進するとともに、健康現役社会を1日でも長く送ってもらうためにも、「老人福祉計画・第6期介護保険事業計画」の実現は必須と考える。そこで、以下の質問をする。

- (1) 「老人福祉計画・第6期介護保険事業計画」最終年度となるがその進捗状況をどう評価しているか。
- (2) 2025年問題を踏まえ、今後の計画策定にあたり、各団体等との意見交換はあるのか。
- (3) 高齢者の健康現役社会に向けての予防対策として、運動、認知症予防など、どのように進めていくのか。
- (4) 社会福祉協議会、シルバー人材センター、自治会、シニアクラブなどで活躍しているマンパワーの現状・課題は何か。社会参加をどう促していくのか。
- (5) 社会教育分野における生涯学習、文化・芸術・スポーツ活動等の参加の現状をどう捉えているか。

② 姉妹都市の考え方について

姉妹都市提携、自治体間交流は、総務省によると「自地域の魅力再発見・再認識」「教育の質の向上」「健康・安全等に関する生活の質の向上」「災害応援の関係づくりのきっかけ」などの効果が期待されるとしている。本町においても、ウェザースフィールド町と姉妹都市交流を行っており、25年度には交流のために訪問し、現在も長与小学校などでは交流が続いているようである。交流によるメリットは様々あるが、これが自治体間となるとさらに、地域の特性を理解することにより、地域間交流が盛んになり、活性化に繋がっていくものと思われる。そこで、歴史的共通点を持つ「愛媛県伊予郡砥部町」との姉妹都市提携は考えられないか伺う。